

胆振東部地震の被災地支援へ

9月6日に発生した北海道胆振東部地震により甚大な被害を受けた厚真町などの被災地では、6日から日本赤十字社北海道支部による救護活動が行われ、置戸赤十字病院の職員も派遣されました。また、置戸町役場職員は北海道の職員派遣要請を受けて、むかわ町に派遣されました。



置戸赤十字病院前から厚真町へ向かう救護班（左から新井医師、小田看護師長、山本看護師、吉川看護師、曾川主事、松田主事）



罹災証明書発行業務に従事する尾崎医療給付係長（左）と竹中主事



町職員派遣壮行会で井上久男町長から激励を受ける3人

▲厚真町福祉センター内救護所の様子と救護班の打ち合わせの様子

9月6日午前3時7分に胆振地方中東部を震源としたマグニチュード6.7、厚真町では最大震度7の地震が発生。死者41人、家屋の被害は5,700棟（9月27日現在）を超える甚大な災害となりました。

厚真町などの被災地では、6日から日本赤十字社北海道支部が災害救護活動を行いました。置戸赤十字病院は、日赤北海道支部から救護班派遣要請を受け、6日～8日まで災害救護班として厚真町福祉センター内救護所で被災者の救護活動を行いました。災害救護班は、新井美成医師、小田斤子看護師長、山本真美看護師、吉川奈江看護師、曾川裕也主事、松田悟主事の6人編成。救護所の受付をした曾川主事は「通信が遮断されており、連絡を取るための手段がないため、直接現場に聞き取りし、対応しました。医師や看護師が患者さんに集中できるようにサポートし、無事に帰院することができました」と話してくれました。

同病院では11日～14日まで多治見学係長が日赤北海道支部災害対策本部に派遣され、救護班の調整や伝達を行いました。さらに26日～29日までは被災者などのこのころのケアを行うため、平川小百合看護師と若生小織看護師が安平町、追分町に派遣されました。

オホーツク管内の市町村は、北海道の災害対策本部から派遣要請を受け、3市12町1村から職員65人が10月1日～5日まで派遣。置戸町からは、五十嵐勝昭森林工芸館長、尾崎岳史医療給付係長、竹中裕登主事の3人が、むかわ町穂別支所に派遣され、罹災証明書発行業務などに従事しました。

今後、置戸町役場職員互助会では職員に支援を募り、被災地に義援金を送る予定です。

様々な支援活動が被災者の助けとなり、一日も早く普段の生活を取り戻すことができることを祈っています。